

劇団☆新感線 2012年春興行

いのうえ歌舞伎

# シレンとラギ



撮影：野波浩

作：中島かずき 演出：いのうえひでのり

出演

藤原竜也 永作博美 / 高橋克実 / 古田新太  
三宅弘城 北村有起哉 石橋杏奈 / 橋本じゅん 高田聖子 栗根まこと 他

大阪公演：梅田芸術劇場メインホール 2012年4月24日(火)～5月14日(月)

東京公演：青山劇場 2012年5月24日(木)～7月2日(月)

大阪・東京公演チケット発売日：3月11日(日)

公式サイト：[www.shiren-to-ragi.com/](http://www.shiren-to-ragi.com/)

—情報告知・取材に関するお問合せ—

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## ご挨拶

平素は、劇団☆新感線公演に格別のご配慮賜り、まことにありがとうございます。

さてその“劇団☆新感線”、本年は2本の興行を準備しております。

第一弾は、この『シレンとラギ』。春から初夏にかけての一大興行になります。内容については、「シレン」というのが永作博美さんで、「ラギ」というのが藤原竜也さんであるということ以外、詳細は敢えてここでは伏せておきましょう。概ねこの二人を中心とするお話であることは間違いありません。

さてさてそれはさておき、この顔ぶれについてご紹介いたします。

藤原さんは、いつも公演アンケートの“出てほしい俳優”ランキングの上位に位置し、私たちも「あれ、まだ出てなかったっけ？」と暢気な会話しきりでした。やっと現実になりました。

永作さんは、「タイムスリップ・黄金丸」以来19年間「大人になった君とまたお芝居やりたいね」と社交辞令のように笑っていました。やっと念願叶いました。

克実さんは、何年か前のある公演の飲み会でのこと。ほとんど気に掛ける人もいないのに“輪切りのレモンを額に張り付け”普通にしゃべっている姿が愛しく見え「こんな人は新感線にでるべきだなあ」とその時思いました。やっとですね。

三宅くんは、言うまでもなく『鋼鉄番長』の奇跡の救世主であります。「この次は、ちゃんと最初から稽古できるといいね」と約束していました。やったね。

有起哉くんは、宴会部長としてお声かけさせていただきました。『メタル マクベス』以来二度目の参加です。やってね。

杏奈ちゃんは、都内某所のスタジオでのこと。真摯な姿勢で稽古を見つめる凛とした横顔を拝見して「こんな子に新感線出て欲しいな」と思いました。初参加だけど、やってみようね。

そして、古田をはじめとする劇団のメンバーについては、もはや言うことはありません。私は、安心していきます。やってくれるよね。

「不変あらざれば、是非もなし！」とは、仮チラシのキャッチコピー。

神を持たずに膨張したこの国の、寄る辺なき真理のその先を垣間見せる作品になることを信じて。

何卒、お引き立てのほどお願い申し上げます。

エグゼクティブプロデューサー 細川展裕

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F

TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 作品紹介

“いのうえ歌舞伎”とは

神話や史実などをモチーフとし、ケレン味を効かせた時代活劇のシリーズ。近年では、その持ち味に加えドラマ性に重きをおき、人間の業を浮き彫りにした作品作りへ進化している。

### 因果に翻弄される二人の愛憎入り組む人間ドラマ「シレンとラギ」

#### 藤原竜也×永作博美 初共演ダブル主演！

劇団☆新感線の最新作は、日本でいう南北朝を匂わせる時代を舞台に、長い年月を掛けた二つの王国の陰謀と因果に翻弄されるシレンとラギ、さらに二人を取り囲む人々の愛憎が入り組み深い人間ドラマを描き出す。

王国の独裁者暗殺を命じられたシレンとラギ。しかしその命令によってあらがえない運命の歯車に巻き込まれることになっていく…。若き暗殺者ラギには新感線初参加となる**藤原竜也**、腕の立つ毒使いシレンには1993年の「TIMESRIP 黄金丸」以来新感線に19年振りの出演となる**永作博美**が、初共演にしてダブル主演を務める。「藤原君の持つ年齢不詳の少年性と、永作さんが持つ女らしさと母性から生まれた作品。演技は素晴らしく腕のある二人なので、難しい設定だが、ヒリヒリするような物語にできれば」と演出のいのうえひでのりを言わしめる二人の初共演に、2012年春、最大の注目が集まっている。

#### 初参加からお馴染みの顔ぶれ、そして二年ぶりに劇団員が勢揃い！

本作では、俳優として舞台・映画・ドラマはもちろんのこと、バラエティでも独特の存在感を発揮する**高橋克実**と、07年に女優デビューして以来話題作に多数出演し、着実なキャリアを築いている**石橋杏奈**が劇団☆新感線に初参加する。そして、10年の「鋼鉄番長」に続いて新感線には4度目の出演となる**三宅弘城**、06年の「メタル マクベス」以来6年振り2度目の出演となる**北村有起哉**と“準劇団員”といえる二人も参加。

さらに、1年半ぶりの劇団公演に参加となる**古田新太**を筆頭に、**栗根まこと**、**高田聖子**、**橋本じゅん**など一癖も二癖もある劇団員が勢揃いする。

若手から実力派、ベテランまで幅広い演技者たちと、劇団ファンには待望のお馴染みの劇団員が顔を揃える“フルスペック劇団☆新感線”公演に期待が高まる。

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F

TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 物語

その頃、その国には二つの王朝があった。

北の王国・通称 幕府。

若く愚かなギセン将軍（三宅弘城）を王とするが、その実はモロナオ執権（粟根まこと）が幕府を運営し北の王国を牛耳っている。王宮の警備には、侍所【さむらいどころ】のキョウゴク管僚（古田新太）と、その部下で若くして守護頭【しゅごのかみ】を務める息子ラギ（藤原竜也）があたっていた。先代の王の十三回忌の日、王宮に敵国の刺客が忍び込む。仕留めたのは、闇の任務を司る狼蘭部隊の中でも腕の立つ毒使いシレン（永作博美）。キョウゴクに呼び戻され北の王国へ戻ってきたのだ。

「伝説の狼蘭にお会い出来て光栄です。」

かつての功績をたたえ、シレンへの憧れと好意を臆することなく口にするラギ。

伝説とも語られるその武勇伝は、20年前の任務で敵国・南の王国のかつての独裁者・ゴダイ大師（高橋克実）の自然死に見せかけた暗殺であった。

しかし、キョウゴクが語った事実に、再びシレンはラギと南の王国へと向かうことになる。

「ゴダイが生きていた。」

呼び戻されたシレンの任務は、20年ぶりに仮死状態から目覚めた南の国王の暗殺だったのだ。

かつてキョウゴクとモロナオらは、ゴダイ大師と共に、同じ理想を抱き一つの国づくりを目指して戦っていた。しかし南でゴダイ教の教祖となり独裁者となったゴダイと袂を分かち、キョウゴクとモロナオは北の王国へ行く。そうして北と南は2つに分かれ敵対することになり、シレンをゴダイの愛妾として潜入させ毒殺したのだった。

それから20年の月日が流れ、一時は衰退していた南の王国は、ゴダイが目覚めたことにより勢いを盛り返していた。そこへシレンと、シレンの従者として潜入したラギ。シレンは、かつて国王の愛妾として南の宮廷にいた頃を知るゴダイの正妻モンレイ（高田聖子）と、幹部シンデン（北村有起哉）に迎え入れられる。そこで2人が目にしたのは20年前の独裁者の面影は一切ない、赤子のようにってしまったゴダイだった。

その頃北の王国では、キョウゴクと娘のミサギ（石橋杏奈）がモロナオによってありもしない謀反の罪をでっち上げられ窮地に立たされていた。そこへ南の王国一の武闘派ダイナン（橋本じゅん）が現れる。かつての仲間であったダイナンによって命を救われるキョウゴクとミサギ。そこでキョウゴクはダイナンから、ゴダイとモロナオを倒し、北と南を一つにしようという提案を受け…

その暗殺行の中、シレンとラギは次第に惹かれあう。

しかし、この恋が2つの王国の運命を大きく動かすことになる…

## History of 劇団☆新感線

- 1980年11月 大阪芸術大学舞台芸術学科の四回生を中心にしたメンバー（こぐれ修、いのうえひでのり等）で、つかこうへい作品『熱海殺人事件』にて旗揚げ。劇団名は、当時のメンバーが実家に帰省する際、新幹線を使っていたというだけのいい加減な理由。以降、つか作品を次々に上演し、つかこうへいのコピー劇団として人気爆発、関西学生演劇ブームの中心的存在に。
- 1984年6月 『つかこうへいサヨナラ3本立』と銘打ち、つか作品と決別。
- 同年11月 『宇宙防衛軍ヒデマロ』より、ハードロック・ヘヴィメタルにのせ笑いや歌やダンスを盛り込んだオリジナル作品の上演を開始。
- 1985年4月 『炎のハイパーステップ』より中島かずきが参加。以降、座付作家として劇団の代表作を書き下ろす。
- 1986年2月 『星の忍者-THE STRANGE STAR CHILD-』にて“いのうえ歌舞伎”と銘打つ作品初演。
- 1988年2月 『星の忍者-風雲乱世篇-』（\*1）にて東京進出。
- 1990年11月 『髑髏城の七人』（\*1）初演
- 1999年1月 劇団の本公演以外に大手プロダクションと組んだ公演を手掛けるようになる。第一弾はホリプロと『西遊記〜PSY U CHIC〜』（\*1）を上演。
- 2000年8月 『阿修羅城の瞳』（\*1）にて松竹と組み、新橋演舞場と大阪松竹座に進出。
- 2002年8月 『アテルイ』（\*1）を同じく松竹と。作品賞として朝日舞台芸術賞・秋元松代賞を受賞。  
中島かずきはこの作品で岸田國土戯曲賞を受賞。
- 2004年 “ドクロイヤー”と称し、4月と11月に同タイトル・同作家・同演出家にて、キャストと演出を替えて『髑髏城の七人』（\*1）を連続上演するという演劇界で類を見ない画期的な試みを決行。
- 同年12月 『SHIROH』（\*1）で本格的なオリジナル・ロック・ミュージカルに挑戦。東宝と組み帝国劇場に進出。これらの活躍に対し、いのうえひでのりは04年度の日本演劇協会賞を受賞。
- 2005年9月 初めて既存の小説を原作にした『吉原御免状』を“いのうえ歌舞伎”として上演。この作品以降いのうえ演出はより人間ドラマを重視する方向へと向かい、“いのうえ歌舞伎”は<第二章>ともいうべき段階へ。
- 2006年5月 宮藤官九郎を脚色に迎えシェイクスピア作品に初挑戦。四大悲劇のひとつ『マクベス』をヘヴィメタルテイストに大胆にアレンジした『メタル マクベス』（\*2）を上演。  
いのうえひでのりはこの作品で芸術選奨文部科学大臣新人賞と千田是也賞を受賞。
- 2008年7月 『五右衛門ロック』（\*2）を同年末に閉館する娯楽の殿堂・新宿コマ劇場にて上演。いかにも“新感線らしい”派手なお祭り舞台として幅広い観客層から熱い支持を得てエポック的な作品となった。
- 2010年 劇団結成30周年を迎え、3月に映像を使ったダイナミックな演出と生バンドの演奏による音楽劇『薔薇とサムライ〜GoemonRock OverDrive』（\*2）、10月に劇団の原点回帰ともいえる体力勝負のドタバタおバカ炸裂の“ネタもの”『鋼鉄番長』（\*3）を上演。
- 2011年 青木豪とタッグを組んだ『港町純情オセロ』はシェイクスピアの『オセロー』を原作に昭和の香る港町のマフィアに置き換えて脚色した異色作を上演。夏には“ワカドクロ”と称し、小栗旬、森山未來などキャストを若手に一新し、再び7年振りに『髑髏城の七人』（\*1）を上演。

### ★劇団☆新感線作品のシリーズ紹介

【いのうえ歌舞伎シリーズ】（\*1）神話や史実などをモチーフとし、ケレン味を効かせた時代活劇のシリーズ。近年では、その持ち味に加えドラマに重きをおき、人間の業を浮き彫りにした作品作りへ進化している。

【新感線Rシリーズ】（\*2）劇中、オリジナルのROCKの楽曲が生バンドで演奏され、歌楽曲が多数あるシリーズ。

【ネタものシリーズ】（\*3）主にいのうえひでのりが書きおろす、ネタを中心とし、お笑いを追求したシリーズ。

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F

TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 作・演出



**作 中島かずき（なかしま・かずき）**

**1959年8月19日生まれ 福岡県出身**

『炎のハイパーステップ』(85)より座付き作家として劇団☆新感線に参加。座長のいとうえひでのりとは高校演劇を通して知り合う。『スサノオ』『髑髏城の七人』『阿修羅城の瞳』など歴史や神話をモチーフに物語性を重視し、複雑に絡み合う伏線を多用した脚本は、疾走感とグルーブ感あふれる演出とあいまって劇団の代表作となっている。また、「ジャンヌ・ダルク」(10)、「戯伝写楽」(09)、「レディ・ゾロ」「OINARI-浅草ギンコ物語-」(03)等の外部への書き下ろし作品も多数。演劇以外にも映画やテレビの脚本、コミック原作、テレビアニメ「天元突破 グレンラガン」(TX・07)の脚本・シリーズ構成やアニメ版「のだめカンタービレ フィナーレ」(CX・10)のシリーズ構成、「仮面ライダーフォーゼ」(EX・11)の脚本のほか、オリジナル小説「まつるひとびと」(11)を出版するなど活躍の場は広い。

【受賞歴】 第47回岸田國土戯曲賞（『アテルイ』）



**演出 いとうえひでのり**

**1960年1月24日生まれ 福岡県出身**

80年劇団☆新感線を旗揚げ。以来、劇画・マンガ的な世界観にあたかもコンサート会場に来ているような派手な照明と音響を用いた構成で、演劇ファンのみならず音楽ファンをも虜にしてきた。笑いに特化した活劇の“ネタもの”では脚本も手がける。時代活劇の“いとうえ歌舞伎”ではアクションとケレン味を効かせた演出に、ドラマのうねりをのせた独特の手法で、小劇場の枠を超えた新しいエンターテインメントの形として“新感線”というジャンルを確立させた。劇団の本公演以外では「ロッキー・ホラー・ショー」(11-12)、「断食」(11)、「怪談 牡丹燈籠」(09)、「TOMMY」(07)、初めて本格的にシェイクスピア作品に取り組んだ「リチャード三世」(08-09)等プロデュース公演の演出も多数手がけている。

【受賞歴】 第14回日本演劇協会賞（『髑髏城の七人』『SHIROH』の演出において）

第9回千田是也賞（『メタル マクベス』の演出において）

第57回芸術選奨文部科学大臣新人賞

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F

TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

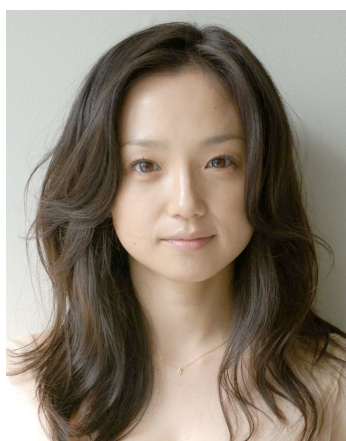
## 出演者

藤原竜也（ふじわら・たつや） 1982年5月15日生まれ 埼玉県出身



97年に蜷川幸雄に見出され舞台「身毒丸」のロンドン公演にて俳優デビュー。以降「近代能楽集～弱法師～」(00、05)、「ハムレット」(03・紀伊國屋演劇賞個人賞、朝日舞台芸術賞寺山修司賞、読売演劇大賞優秀男優賞・杉村春子賞)、「ロミオとジュリエット」(04-05)、「オ레스テス」(06)、「ムサシ」(09)、「下谷万年町物語」(11)などの蜷川演出作品の他、「ロープ」(06-07)、「かもめ」(08)、「黙阿彌オペラ」(10)、「ろくでなし啄木」(11)など数多くの舞台に出演。他、近年の主な出演作に映画「バトル・ロワイアル」(00・ブルーリボン賞新人賞、日本アカデミー賞主演男優賞・新人俳優賞ほか)、「バトル・ロワイアルII」(03・日本アカデミー賞優秀主演男優賞)、「デスノート」(06)、「カイジ」(09)、「パレード」「インシテミル」(10)、「カイジ2」(11)、「おかえり、はやぶさ」(12.3.10公開)、ドラマ「新選組!」(04・NHK)、「古畑任三郎」(06・CX)、「おじいちゃんは25歳」(10・TBS)、「遺恨あり 明治十三年 最後の仇討」(11・EX・放送文化基金賞演技賞)、「ブルータスの心臓」(11・CX)などがある。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

永作博美（ながさく・ひろみ） 1970年10月14日生まれ 茨城県出身



作品のジャンルを問わず、コメディからシリアスまで幅広い作品に数多く出演し、定評のある演技力で高い評価を得ている。07年公開の映画「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」では、報知映画賞、キネマ旬報ベストテン、ヨコハマ映画祭、ブルーリボン賞、日本映画批評家大賞の5冠に輝き、2010年・11年公開の「酔いがさめたら、うちに帰ろう。」「八日目の蟬」で報知映画賞を受賞している。また、一人芝居に挑戦した「水物語」(97)や長塚京三との二人芝居「オレアナ」(99)など、舞台にも意欲的に取り組んでいる。主な出演作に、映画「空中庭園」(05)、「気球クラブ、その後」(06)、「好きだ、」(06)、「人のセックスを笑うな」(08)、「脇役物語」(10)、ドラマ「陽のあたる場所」(94・CX)、「週末婚」(99・TBS)、「Pure Soul」(01・YTV)、「巧名が辻」(06・NHK)、「四つの嘘」(08・EX)、「曲げられない女」(10・NTV)、「ダーティ・ママ!」(12・NTV)、舞台「ふたたびの恋」(03)、「LAST SHOW」(05)、「幸せ最高ありがとうマジで!」(08)などがある。ほか、Web「InRed Buyers」(宝島社)にてコラム“永作博美の前途洋洋”を連載中。劇団☆新感線には「TIMESRIP 黄金丸」(93)以来2度目の参加となる。

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 出演者

### 三宅弘城（みやけ・ひろき） 1968年1月14日生まれ 神奈川県出身



88年劇団健康（現：ナイロン100℃）で初舞台を踏み、劇団の主要メンバーとして活躍。パンクコントバンド「グループ魂」ではドラマー“石鹸”としても活動している。舞台以外にも、ドラマ・映画と映像でも活躍の場を広げている。近年の主な出演作に映画「マリと子犬の物語」（07）、「少年メリケンサック」（09）、「メアリー&マックス」（11・声の出演）、「映画 怪物くん」（11）、ドラマ「怪物くん」（10・NTV）、「マドンナ・ヴェルテ」（11・NHK）、「ドン★キホーテ」（11・NTV）、「みいつけた!」（09～・NHK教育）、舞台「宝塚BOYS」（07）、「R2C2～サイボーグなのでバンド辞めます!～」 「マレーヒルの幻影」（09）などがある。劇団☆新感線には、「ドラゴンロック 2～轟天大逆転」（99）、「髑髏城の七人（アオドクロ）」（04）、「鋼鉄番長」（10）に続いて4作目の出演となる。

### 北村有起哉（きたむら・ゆきや） 1974年4月29日生まれ 東京都出身



98年に舞台「春のめざめ」（TPT）と映画「カンゾー先生」でデビュー。その後、舞台、映画、TVと幅広く活動する。これまでに翻訳劇「CLEANSKINS/きれいな肌」「欲望という名の電車」（07）、時代劇「おはつ」（04）、「小林一茶」（05）、人気作家の新作「LAST SHOW」（05）、「パイパー」（09）など、主役・脇役、ジャンル、キャラクター、時代性などの境界線に一切とらわれない表現力でその振れ幅の大きさを縦横無尽に体現している。映画やドラマなど映像でもその役柄は柔も剛も問わず舞台同様に幅広く出演し、その独特な存在感で新たな表現に挑戦している。近年の主な出演作に、映画「半次郎」「桜田門外ノ変」（10）、ドラマ「江～姫たちの戦国～」（10・NHK）、「ジウ 警視庁特殊犯捜査係」（10・EX）、「運命の人」（12・TBS）、舞台「黙阿彌オペラ」「やけたトタン屋根の上の猫」（10）、「十一ぴきのネコ」（12）などがある。劇団☆新感線には「メタル マクベス」（06）に続き2作目の出演となる。

### 石橋杏奈（いしばし・あんな） 1992年7月12日生まれ 福岡県出身



06年、第31回ホリプロタレントスカウトキャラバンでグランプリを受賞。翌年、土曜ミッドナイトドラマ「失踪 HOLIDAY」（EX）で女優デビュー。初主演した映画「きみの友だち」で第30回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞受賞。主な出演作に、映画「色即ぜねれいしょん」（09）、「時をかける少女」（10）、「マイ・バック・ページ」「婚前特急」（11）、ドラマ「銭ゲバ」（08・NTV）、「赤い糸」（09・CX）、「MM9」（10・MBS）、「おひさま」（11・NHK）、「妖怪人間ベム」（11・NTV）、舞台「カーディガン」（10）、「もしもキミが。」（11）などがある。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

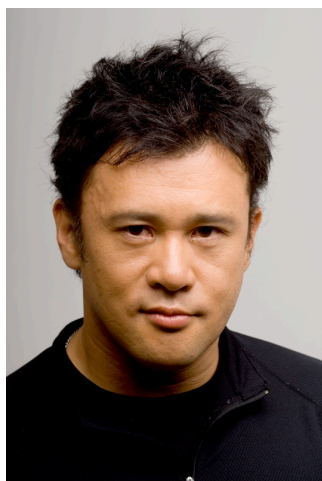
---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656



## 出演者

橋本じゅん（はしもと・じゅん） 1964年2月25日生まれ 兵庫県出身



85年、大阪芸術大学在学中より劇団☆新感線に参加し、“なくてはならない存在”として多くの劇団公演に出演。代表作は“直撃!ドラゴンロック”シリーズ。激しいトレーニングをして臨む格闘家・剣轟天役は多くの人々を虜にし、宮藤官九郎演出のウーマンリブ公演「轟天 vs 港カヲル」に劇団を超えて出演し話題に。劇団公演以外の主な出演作に「私生活」(08)、「冬の絵空」(09)、「ファニー・ガール」(10)、「ピーターパン」(09-11)、「アントニーとクレオパトラ」(11)、「寿歌～ほぎうた～」(12.1)、映画「激情版 エリートヤンキー三郎」(09)、「なくもんか」(10)、ドラマ「特急田中3号」(TBS・07)、「エリートヤンキー三郎」(TX・07)、「ハチミツとクローバー」(CX・08)、「救命病棟24時」(CX・09)、「うぬぼれ刑事」(TBS・10)、「ハングリー!」(CX・12)、「恋愛ニート～忘れた恋のはじめ方～」(TBS・12)、など。舞台を降りれば海をこよなく愛する釣り人である。

高田聖子（たかだ・しょうこ） 1967年7月28日生まれ 奈良県出身



大学在学中にスカウトされ87年「阿修羅城の瞳」より劇団☆新感線に参加し、現在に至るまで看板女優として活躍。ほか、自身で座長を務めるプロデュース集団「月影十番勝負」・「月影番外地」の公演も定期的に行っている。劇団公演以外の主な舞台作品に「キル」(07-08)、「スペリングビー」(09)、「ぼっちゃま」「南へ」「往転～オウテン」(11)、「青春漂流記」(12.)など。舞台以外にもヒロインの姉役で強烈な存在感を見せお茶の間で人気を博したドラマ「やんちゃくれ」(NHK・98-99)や、「芋たこなんきん」(NHK・06-07)、「ホームレス中学生」(CX・08・09)、「不毛地帯」(CX・09)、「火の魚」(NHK・09)、映画「酔いがさめたら、うちに帰ろう。」(10)など映像でも活躍している。

栗根まこと（あわね・まこと） 1964年8月7日生まれ 大阪府出身



85年「ヒデマロ2」より劇団☆新感線に参加。マッドな博士から薄幸の美男子まで幅広く担当し、現在の劇団の中核を担う存在。リズムカルで軽妙な動きと独特な声を武器にコメディからミュージカルまでこなす芸達者ぶりは評価が高い。劇団公演以外にも、舞台「昭和島ウォーカー」(08)、「冬の絵空」(08-09)、「斉藤幸子」(09)、「罪と、罪なき罪」(10, 08)、「僕を愛ちて。～燃える湿原と音楽～」「CLOUD～クラウド～」(11)、「十一ぴきの猫」(12)、ドラマ「新選組!」(NHK・04)、「功名が辻」(NHK・06)、「トンスラ」(NTV・08)、「猿ロック」(NTV・09)、映画「隠し砦の三悪人」(08)、「インスタント沼」(09)、「これでいいのだ!映画★赤塚不二夫」(11)など様々な作品に出演。また、人物の観察力が鋭く、イラストも得意なことから雑誌のコラムなどでもその芸達者ぶりを発揮している。

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 齊藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 出演者

**高橋克実（たかはし・かつみ） 1961年4月1日生まれ 新潟県出身**



劇団離風霊船出身。1990年代より映像分野に進出。以降、舞台を始め数多くのドラマ、映画に出演するほか、バラエティ番組の司会やナレーション、ラジオのMCなど幅広く活躍。近年の主な出演作に、映画「フラガール」(06)、「象の背中」(07)、「西の魔女が死んだ」(08)「交渉人 THE MOVIE」(10)。ドラマ「ショムニ」シリーズ(CX・98~03)、「拝啓、父上様」(CX・07)「フルスイング」(NHK・08)「刑事一代」(ANB・09)、「官僚たちの夏」(TBS・09)、「龍馬伝」(NHK・10)、「特上カバチ!!」(TBS・10)、「ハガネの女」(ANB・10)、「ドン★キホーテ」(NTV・11)、「梅ちゃん先生」(NHK・12~)。MC「トリビアの泉」(CX・03~)、「爆笑レッドカーペット」(CX・07~)、「夢!どうぶつ大図鑑」(TBS・11~)。舞台「ピローマン」(04)、「夢のかさぶた」(06)、「瞼の母」「あれから」(08)、「バンデラスと憂鬱な珈琲」(09)、「夢の裂け目」「叔母との旅」(10)、「大人は、かく戦えり」(11) などがある。劇団☆新感線には本作が初参加となる。

**古田新太（ふるた・あらた） 1965年12月3日生まれ 兵庫県出身**



劇団☆新感線の看板役者。大阪芸術大学在学中に劇団☆新感線「宇宙防衛軍ヒデマロ」(84)に参加。エネルギッシュな迫力ある演技には定評がある。劇団公演以外に「リチャード三世」(08-09)、「ザ・キャラクター」(09)、「流れ姉妹たつことかつこ~エンド・オブ・バイオレンス~」「たいこどんどん」(11)、「ロッキー・ホラー・ショー」(11-12) など外部の舞台へも積極的に参加している他、自身で企画・出演を務める「鈍獣」(04)、「49日後…」(08)、「印獣」(09) や座長公演「奥様お尻をどうぞ」(11) などもある。活躍の場は広く、バラエティ番組への出演や、コラムニストとして著書に「魏志痴人伝」「柳に風」がある。舞台以外の近年の主な作品は、映画「忍たま乱太郎」「毎日かあさん」(11)、「十三人の刺客」(10)、ドラマ「専業主婦探偵〜私はシャドウ」(TBS・11)、「らんま 1/2」(NTV・11)、「とんび」(NHK・12)、「13歳のハローワーク」(EX・12) など。

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 齊藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 公演概要

公演名称 いのうえ歌舞伎「シレンとラギ」  
 作 中島かずき  
 演出 いのうえひでのり  
 出演 藤原竜也 永作博美 / 高橋克実 / 古田新太  
 三宅弘城 北村有起哉 石橋杏奈 / 橋本じゅん 高田聖子 粟根まこと  
 右近健一 逆木圭一郎 河野まさと 村木よし子 インディ高橋 山本カナコ  
 磯野慎吾 吉田メタル 中谷さとみ 保坂エマ 村木仁 他  
 企画・製作 劇団☆新感線・ヴィレッチ

チケット発売日 2012年3月11日(日) 大阪・東京公演一斉発売

公式サイト [www.shiren-to-ragi.com](http://www.shiren-to-ragi.com)

### 【大阪公演】

会場 梅田芸術劇場メインホール

公演スケジュール 2012年4月24日(火)～5月14日(月)

4月	24火	25水	26木	27金	28土	29日	30祝							
13:00		休演日	●		●	●	●							
18:30	●			●	●		●							
5月	1火	2水	3木	4金	5土	6日	7月	8火	9水	10木	11金	12土	13日	14月
13:00	休演日	●	●		●	●	●	休演日	●	●		●	●	●
18:30			●	●	●					●	●	●	●	

チケット料金 S席 13,500円 A席 10,500円 B席 7,500円 (全席指定・税込)

プレイガイド チケットぴあ <http://pia.jp/t/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-02-9550  
 【3/12以降】 0570-02-9999 <Pコード:417-128>  
 イープラス <http://eplus.jp/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-06-9900  
 ローソンチケット <http://l-tike.com/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-08-4658  
 【3/12以降】 0570-08-4005 <Lコード:52534>  
 0570-00-0407  
 CNプレイガイド <http://www.cnplayguide.com/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-03-9911  
 【3/12以降】 0570-08-9999  
 阪神プレイガイド 窓口販売のみ  
 お問い合わせ キョードーインフォメーション 06-7732-8888 (10:00～19:00)

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
 TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656

## 公演概要

【東京公演】

会場 青山劇場

公演スケジュール 2012年5月24日(木)～7月2日(月)

5月	24木	25金	26土	27日	28月	29火	30水	31木	6月	1金	2土	3日	4月	5火		
12:30		休演日	●			●		休演日	/		●			●		
14:00				●			●						●			
18:00	●		●		●	●					●	●		●	●	
6月	6水	7木	8金	9土	10日	11月	12火	13水	14木	15金	16土	17日	18月	19火		
12:30		休演日		●			●		休演日		●			●		
14:00	●				●			●					●			
18:00			●	●		●	●				●	●		●		
6月	20水	21木	22金	23土	24日	25月	26火	27水	28木	29金	30土	7月	1日	2月		
12:30	●	休演日		●			●		休演日		●	/		●		
14:00					●			●						●		
18:00	●		●	●		●	●				●		●			

チケット料金 S席 12,500円 A席 10,500円 (全席指定・税込)

プレイガイド チケットぴあ <http://pia.jp/t/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-02-9910  
 【3/12以降】 0570-02-9999 <Pコード:417-097>

イープラス <http://eplus.jp/shiren-to-ragi/>  
 ローソンチケット <http://l-tike.com/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-084-632  
 【3/12以降】 0570-084-003 <Lコード:33310>  
 0570-000-407

CNプレイガイド <http://www.cnplayguide.com/shiren-to-ragi/>  
 【3/11のみ】 0570-08-9911  
 【3/12以降】 0570-08-9999

サンライズオンライン <http://sunrisetokyo.com>

お問合せ サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (10:00～19:00)

---情報告知・取材に関するお問合せ---

ディップス・プラネット 斉藤沙知子・村田綾子・草場千春・大山雅子 MAIL/pr@dipps.co.jp  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 松晃ビル2F  
 TEL/03-5211-7655 FAX/03-5211-7656